



TITLE:

ネター整域の素イデアル鎖について (可換環論の研究)

AUTHOR(S):

藤田, 和憲

CITATION:

藤田, 和憲. ネター整域の素イデアル鎖について (可換環論の研究). 数理解析研究所講究録 1980, 374: 164-173

ISSUE DATE:

1980-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/104717>

RIGHT:

ネター整域の素イデアル鎖について

香川大教育 藤田和憲

最近、小野田司氏により catenary でない noetherian normal domain の例が構成された (この考究録の「擬幾何学的環の formal fibre による素イデアル鎖条件の判定」). 従って Ratliff が提出した chain conjecture: 「noetherian local domain の integral closure は chain condition を満たす」は否定的に解かれたことになった.

ここでは Ratliff の著書 Chain conjecture in ring theory (Lecture Note 647 Springer) を参考にして、素イデアル鎖問題の経緯および Nagata, Ratliff 等の得た結果のいくつかについて要約する. 以下 ring はすべて noetherian ring あるいは noetherian domain の almost finite integral extension とする. 素イデアル鎖について詳しくない方も平易に読めるように定義から始める.

定義 環 R の素イデアル鎖 $\mathfrak{p}_0 \subset \mathfrak{p}_1 \subset \cdots \subset \mathfrak{p}_n$ が saturated

$$\Leftrightarrow \forall i \leq n \quad \text{ht } \mathfrak{p}_i / \mathfrak{p}_{i-1} = 1$$

$\mathfrak{p}_0 \subset \mathfrak{p}_1 \subset \cdots \subset \mathfrak{p}_n$ が saturated であって、 \mathfrak{p}_0 が maximal ideal, \mathfrak{p}_n が minimal prime ideal のとき、 $\mathfrak{p}_0 \subset \mathfrak{p}_1 \subset \cdots \subset \mathfrak{p}_n$ を maximal chain という。

定義 環 R が catenary

$$\Leftrightarrow R \text{ の prime ideals } \mathfrak{p}, \mathfrak{f} \ (\mathfrak{p} \supset \mathfrak{f})$$

について \mathfrak{p} と \mathfrak{f} の間の saturated chain の長さは一定

すぐわかるように R が domain のときは 次の条件 (i) あることは (ii) と同値になる。

- (i) $\forall \mathfrak{p}, \mathfrak{f} \in \text{Spec}(R)$ s.t. $\mathfrak{p} \supset \mathfrak{f}$ について $\text{ht } \mathfrak{p} = \text{ht } \mathfrak{f} + \text{ht } \mathfrak{p}/\mathfrak{f}$
- (ii) $\text{ht } \mathfrak{p}/\mathfrak{f} = 1$ なる R の任意の prime ideals $\mathfrak{p}, \mathfrak{f}$ について、 $\text{ht } \mathfrak{p} = \text{ht } \mathfrak{f} + 1$

よく知られてゐるように、体 k 上の affine ring $k[x_1, \dots, x_n]$ とか、regular local ring は catenary である。

また、catenary ring の homomorphic image は catenary である。従つて I. S. Cohen の Structure theorem of complete local rings *)、complete local

ring は catenary であることがわかる。これらのことから自然に次の問が生じる。

noetherian ring は catenary か？

これは長い間解けなかつた問題であった。[1]にも同様の問が示されている。上の問は 1956 年に Nagata によって否定的に解かれた。catenary ではない noetherian domain の例が示された [4]。今度、小駒氏の例が出るまでに、catenary ではない noetherian ring の例は、本質的に Nagata の構成したものだけであった。Nagata は次に示すような domain R' および、その subring R を作った：

$(R', \mathfrak{m}_1, \mathfrak{m}_2)$ は 体 K を含む semi local domain で 次の (i) ~ (iii) を満たす。 (i) $\text{ht } \mathfrak{m}_1 = m+1, \text{ht } \mathfrak{m}_2 = r+m+1$ ことに $r > 0, m \geq 0$ (ii) $R'_{\mathfrak{m}_1}, R'_{\mathfrak{m}_2}$ は regular local rings. (iii) $R'_{\mathfrak{m}_1} = K, R'_{\mathfrak{m}_2} = K$. ことに $\mathfrak{m} = \mathfrak{m}_1 \cap \mathfrak{m}_2$, $R = K + \mathfrak{m}$ とおく。このとき (R, \mathfrak{m}) は noetherian local domain で 次のいくつかの変わった性質をもつ (a) R' は R の integral closure 従って (R, \mathfrak{m}) の integral closure は 高さの異なる maximal ideals をもつ。 (b) R' の maximal ideal \mathfrak{m}_1 の高さは $m+1$ であるが、 \mathfrak{m}_1 を R に落した maximal ideal \mathfrak{m} の高さは $m+r+1$ 。よって、 $\text{ht } \mathfrak{m}_1 < \text{ht } \mathfrak{m}_1 \cap R$. (c) $m > 0$ のとき、 R に

は、 $\{0\}$ と m の間に長さ $m+1$ および $r+m+1$ の saturated chain がある。従って R は catenary ではない。(d) $m=0$ のとき R は catenary であるが、 R 上一変数多項式環 $R[X]$ は catenary ではない。

この例の $m>0$ のときの R の integral closure と $m=0$ のときの $R[X]$ の integral closure は局所的に regular local ring であるから catenary である。このことが主な理由で次の向が生じる

noetherian normal domain は catenary か?

noetherian domain の integral closure は catenary か?

Reisner はこれを解くべくかなり努力した。彼の Lecture note の p. 20 にあるように、彼は上の向は成立すると考えていたと思える。小堀氏はこの向に対する反例を与えた。

次にいくつかの素イデアル鎖の条件のうちから主に second chain condition について書く。まず定義から:

~~定義~~ ring R が first chain condition for prime ideals を満たす。(略して f.c.c. を満たす)

\Leftrightarrow

R の任意の maximal な素イデアル鎖の
長さは $\dim R$ に等しい

定義 ring R が second chain condition for
prime ideals (略して s.c.c.) をみたす.

 \Leftrightarrow

R の任意の minimal prime ideal \mathfrak{P} に
対して R の任意の integral extension
は f.c.c. をみたす.

定義 domain R が altitude formula をみたす

 \Leftrightarrow

R を含む任意の finitely generated domain
 A について $\forall \mathfrak{p} \in \text{Spec}(A)$

$$\text{ht } \mathfrak{p} + \text{tr.deg}_{R/\mathfrak{p}} A/\mathfrak{p} = \text{ht } \mathfrak{P} + \text{tr.deg}_R A$$

定義 ring R が universally catenary

 \Leftrightarrow

R 上任意の finitely generated algebra
は catenary

前の Nagata の例で $m=0$ の R は first chain condition
をみたすが、second chain condition はみたさない。

またその R は *universally catenary* でもない.

定理 (R, m) を *local domain* とすると 次は 同値である.

- (1) R は *quasi unmixed* i.e. R の completion \hat{R} は *f.c.c.* をみたす.
- (2) R は *altitude formula* をみたす
- (3) R は *s.c.c.* をみたす.
- (4) R は *universally catenary*
- (5) $R[X]$ は *catenary*
- (6) R の *integral closure* は *s.c.c.* をみたす.
- (7) R の *henselization* は *s.c.c.* をみたす
- (8) R の *henselization* は *f.c.c.* をみたす

注意 *henselian local ring* については *f.c.c.* をみたす
 \Leftrightarrow *s.c.c.* をみたす.

(1) \Rightarrow (3) は [4] で示された. (1) \Rightarrow (2) は [5] に原形があり [6] で完全になった. Ratliff の論文 [7] の一つの特徴は、(2) \Rightarrow (1) と (3) \Rightarrow (1) を証明した点である.
 [7] のもう一つの特徴は (1) \Leftrightarrow (5) を示した点である.

Ratliff の *lecture note* には、これらも含めて 32 個の同値

な命題が示されている。そのうちから多少表現において異っているものを2つ書き加える。

(9) $(m, y)R[y] \subsetneq R[y]$ をみたす R の商体の任意の元 y に対して、 $R[y]_{(m, y)}$ は catenary でありかつ、 $\dim R[y]_{(m, y)} = \dim R$

(10) $e(\mathcal{O}) = e(\mathcal{L})$ なる任意の m -primary ideal \mathcal{L} の $\mathcal{O}\mathcal{L}$ に対して、 $\mathcal{L}\mathcal{O}^n = \mathcal{O}^{n+1} \quad \forall n \gg 0$ に e は multiplicity を表わす。

最後に Ratliff の lecture note の中にある素イデアル鎖に関する予想のうち 主なものを書く。まず定義から：

定義 ring R が chain condition (略して c.c.) をみたす $\Leftrightarrow \forall p, \mathfrak{p} \in \text{Spec}(R), (p \supset \mathfrak{p})$
 $(R/\mathfrak{p})_{\mathfrak{p}} \text{ は s.c.c. をみたす}$

定義 domain R が H-domain

$\Leftrightarrow R$ の任意の高々1の prime ideal \mathfrak{p} について $\dim R_{\mathfrak{p}} = \dim R - 1$

- (a) Chain conjecture: local domain の integral closure は, c.c. を満たす.
- (b) Depth conjecture: R を任意の local domain, $\mathfrak{p} \in \text{ht } \mathfrak{p} > 1$ なる R の任意の prime ideal とするとき, $\mathfrak{p} \supset \mathfrak{f}$, $\dim R/\mathfrak{f} = \dim R/\mathfrak{p} + 1$ を満たす R の prime ideal \mathfrak{f} が存在する.
- (c) H-conjecture: H-local domain は catenary.
- (d) Catenary chain conjecture: catenary local domain の integral closure は c.c. を満たす.
- (e) Normal chain conjecture: integral closure が f.c.c. を満たす local domain は, s.c.c. を満たす.

これらの予想の間の関係は、 $(a) \Rightarrow (b) \Rightarrow (c) \Rightarrow (d) \Rightarrow (e)$ である。

(a) は、小駒氏の例により成り立たないことがわかった。(b) ~ (d) は今のところ解けていない。(b) ~ (d) はどれも興味深く面白い問題であるが、(a) が崩れたときのくらい意味があるか疑問である。

(c) に関連して、Ratliff は [4] で次のことを示している。

命題 local domain (R, \mathfrak{m}) について

$$R \text{ が catenary} \iff \mathfrak{f} \in \text{Spec}(R) \quad \text{ht } \mathfrak{f} + \dim R/\mathfrak{f} = \dim R$$

また [2] には、任意の prime ideal \mathfrak{p} について、 $\text{ht } \mathfrak{p} + \dim R_{\mathfrak{p}} = \dim R$ が成立するが catenary (ない noetherian Hilbert domain) が構成されている。semi local domains については次の予想がある

Taut-level conjecture: R を $\text{ht } \mathfrak{p} + \dim R_{\mathfrak{p}} = \dim R$ $\forall \mathfrak{p} \in \text{Spec}(R)$ を満たす semi local domain とすると、 R は f.c.c. を満たす。

これについては、taut-level conjecture \Rightarrow Catenary conjecture である。上の予想について、[3] に部分的な解がある。

命題 R を $\text{ht } \mathfrak{p} + \dim R_{\mathfrak{p}} = \dim R$ $\forall \mathfrak{p} \in \text{Spec}(R)$ を満たす semi local domain とすると、 R の maximal (ない任意の prime ideal \mathfrak{p} について、 $R_{\mathfrak{p}}$ は a.c.c. を満たす。

参考文献

- [1] I. S. Cohen, Length of prime ideal chains, Amer. J. Math. 76 (1954), 654-668.
- [2] K. Fujita, Some counterexamples related to prime chains in integral domains, Hiroshima Math.

- J. 5 (1975), 473-485.
- [3] S. McAdam and L.J. Ratliff, Semi local taut rings, *Indiana Univ. Math. J.* 26 (1977), 73-79.
- [4] M. Nagata, On the chain problem of prime ideals, *Nagoya Math. J.* 10 (1956), 51-64.
- [5] M. Nagata, Note on a chain condition for prime ideals, *Mem. Coll. Sci. Univ. Kyoto* 32 (1959-1960), 85-90.
- [6] L.J. Ratliff, On quasi-unmixed semi-local rings and the altitude formula, *Amer. J. Math.* 87 (1965), 278-284.
- [7] L.J. Ratliff, On quasi-unmixed local domains, the altitude formula, and the chain condition for prime ideals (I), *Amer. J. Math.* 91 (1969), 508-528.
- [8] L.J. Ratliff, Catenary rings and the altitude formula, *Amer. J. Math.* 94 (1972), 452-466.